苗場山麓ジオパーク
Naebasanroku Geopark

ジオサイトマップ

苗場山麓ジオパーク

雪のふる里 ～奥信越の川と火山がつくりだした大地・雪に育まれた自然と歴史文化～

苗場山麓ジオパークは、苗場山の北西に位置し、長野県栄村と新潟県津南町を範囲とする総面積約442㎢のジオパークです。エリアの北西を日本一長い川が流れ、この川は栄村より上流では千曲川とよばれ、津南町に入ると信濃川と名前を変え、やがて日本海へそそぎます。

苗場山麓ジオパークでは、地球規模の気候変動と中津川のはたらきによって、およそ40万年かけてつくられた日本有数の階段状の地形（河岸段丘）を一望することができます。さらに、苗場山や鳥甲山の溶岩からなる見る者を圧倒する柱状節理の発達した岩壁、風穴やかつて海だった信濃川左岸の地層や地すべり地形など、大地の躍動を体感できるジオサイトがたくさんあります。

この大地に、毎年3～4mの雪が降り積るという多雪環境に適応したたくさんの動植物が生育しています。なぜ、この苗場山麓にたくさんの雪が降るようになったのか？それは、三国山地の形成と日本海へ対馬暖流が流れ込んだためと言われます。ユーラシア大陸からの季節風は、日本海を渡る際に暖流による水蒸気を蓄え、三国山地にぶつかって上昇し雪雲となり、たくさんの雪を降らせるのです。

このような大地と環境のもと、その脅威に耐え、そしてたくさんの恩恵を受けながら私たち人間は縄文時代以前からこの苗場山麓に暮らしつづけてきました。

この地に1万年間森と生きた縄文の人々に習い、自然と共生することを再確認する場所、私たちはこれから大地や自然とどのように付き合い接していくべきかを五感をとおして学ぶ場所、それが苗場山麓ジオパークです。

ジオサイト№32 苗場山（前倉ト尻展望台 Map D-4 より）

真夏でも3～4℃の冷気が出てくる
ジオサイト№13 山伏山の風穴
ジオサイト№14 石落し

苗場山麓の 植物・動物・昆虫

苗場山麓には、とてもたくさんの生きものがいます。

とくに植物は、生きた植物図鑑といわれるほどで約1,300種が生育しています。雪の中に埋もれることで生きられるユキツバキ、苗場山や小松原の高層湿原に咲くヒメシャクナゲやワタスゲ、風穴の周辺にのみ生育する希少なエゾスグリやエゾヒョウタンボク、トチノキの原生林などを見ることができます。

ユキツバキ

ヒメシャクナゲ

ほ乳類は約35種が生息し、ニホンカモシカやノウサギ、タヌキやキツネなどをよく見かけます。最近ではツキノワグマが町までやってくることもあります。

クマタカ

鳥類は、約120種、苗場山麓の特徴である大木の森林や断崖にクマタカやハヤブサが生育しています。渡り鳥には、希少種を観察することもできます。魚類は、水が豊富な川にイワナややマメメなど33種が生息しています。

昆虫は、たくさんの種類が見られますが、まだ詳しくは調べられていません。「春の女神」とよばれるギフチョウ、「生きた化石」のムカシトンボ、日本最少のハッチョウトンボなども見ることができ、ホタルがたくさん生育する場所もあります。

ハッチョウトンボ

苗場山麓ジオパークめぐり モデルコース

丸数字はジオサイト№

半日コース

なじょもん（30分）→ ❶マウンテンパーク津南展望台から河岸段丘眺望（20分）→ ❹龍ヶ窪（30分）→ 20分 → ⑭津南見玉公園から石落しの眺望（30分）→ ⑬見玉不動尊（30分）→ 5分

❶

❹

1日コース

なじょもん（30分）→ 15分 → ⑭津南見玉公園から石落しの眺望（30分）→ ⑬見玉不動尊（30分）→ 5分 → とねんぼ（20分）→ 30分 → 昼食（60分）→ 10分 → ⑰天池から鳥甲山の眺望（10分）→ 10分 → ㊸切明の川原（30分）→ 10分 → ㉟布岩山（10分）→ 20分 → ㉛前倉ト尻展望台から苗場山眺望（10分）→ 30分 → ❹龍ヶ窪（30分）

⑭

㊸

⑬

ガイドと一緒に 苗場山麓を楽しもう！

苗場山麓ジオパークでは、ガイド養成講座、ガイド認定試験を経た地元ガイドが皆様をお待ちしております。

苗場山麓の雄大な大地の履歴や美しい風景、その背景には、成り立ちやそこに息づく動植物、そしてここに暮らしつづけてきた人の歴史文化があります。そのすばらしさを地元ガイドが地元の言葉で伝えたい。さらなる知識や感動を持ち帰っていただきたい。そんなふうに願っています。ぜひガイドと一緒に苗場山麓をめぐってみませんか。

ガイドの依頼・お問合せ　津南町観光協会☎025-765-5585
●料金目安　半日6,000円／1日8,000円
（ガイド1人でお客さま10人程度）
●2週間前の予約を原則とします。
その他、詳細につきましては、上記津南町観光協会まで。

苗場山麓ジオパーク 57 ジオサイト

⚠ガイド同伴でないと入れません
🚫見学不可

❶ 河岸段丘（マウンテンパーク津南からの眺望）（裏面に紹介）MAP D-2

❷ 上野の大杉 MAP D-2
上野集落の「原の稲荷様」が祀られた塚の上に立つスギ。幹周6.5m、高さ30m、樹齢300～400年。津南町の天然記念物。

❷上野の大杉

❸ 今井城跡（新潟県指定史跡）MAP D-2
信濃川を一望する段丘面（栄原Ⅱ面）の突端に築かれた中世の城跡。戦国時代には、上杉氏の番城として使用され、『太平記』にも記されている山城。堀や本丸・二の丸の跡が残っており、現在も当時の面影を残している。巨大な堀り切りや畝状竪堀が特徴的。

❸今井城跡

❹ 龍ヶ窪（日本名水百選）（裏面に紹介）MAP D-2

❺ 沖ノ原遺跡（国指定史跡）MAP D-2
米原Ⅱ面段丘上に営まれた縄文時代のムラ跡。53軒の建物跡が発見され、直径約120mの環状集落だった。火焔型土器や石器、土偶、クッキー状炭化物など発見された資料1,064点は、新潟県の文化財に指定されている。津南町歴史民俗資料館に展示。

❺沖ノ原遺跡

❻ 外丸矢放神社の八本杉 MAP D-1
8本のスギが集合して生長と共に根本がくっつき、巨大な1本のスギのように見える。幹周11.4m、高さ40m、樹齢400～500年。津南町の天然記念物。

❻外丸矢放神社の八本杉

❼ 正面ケ原Ｄ遺跡（新潟県最古）MAP E-2
およそ3万年以上前の人類の痕跡である、刃の部分を磨いた局部磨製石斧という石斧など、たくさんの石器が出土している。出土した石器は、津南町歴史民俗資料館と農と縄文の体験実習館なじょもんに展示されている。

❼正面ケ原Ｄ遺跡

❽ 船山神社の大欅 MAP E-2
幹周5.5m、高さ25m、樹齢300～400年と推定される大欅。津南町の天然記念物。

❽船山神社の大欅

❾ 堂平遺跡 MAP E-2
約5,500年前の縄文時代の遺跡。出土した火焔型土器と王冠型土器の2点が、完形率の高さから国の重要文化財に指定されている。また、推定径約50mの環状列石、七ツ釜の柱状節理から作られた石棒などが発見されている。津南町歴史民俗資料館に展示。

❾堂平遺跡

❿ 美穂 ローム層の露頭 MAP E-2
最も高く古い谷上段丘面に位置し、約40万年前から現在までの堆積物を確認する事ができる。また下層には、バイオタイトローム層と呼ばれる黒雲母を含む層があり、縄文土器を観察するとこの黒雲母が風化して金色に変色したものが含まれており、土器作りなどに利用していたことが分かる。

❿美穂 ローム層の露頭

⓫ 七ツ釜（国指定天然記念物）MAP F-3
釜川は、左岸が津南町、右岸が十日市に位置する。この釜川には七つの滝淵がありセツ釜と呼ばれている。柱状節理のある岸壁は、約700万年前から500万年前にマグマが固まったもので、元は海底にあったものが隆起して姿を現した。

⓫七ツ釜（国指定天然記念物）

⓬ 野々海池のミズバショウ群落 MAP C-2
標高1,020mにあり、崩落地形に水がたまってできた池。周囲にはブナ林が広がり、冬は7m以上の雪に閉ざされ7月初めまで残雪がある。雪どけとともにミズバショウの群落が花を咲かせる。

⓬野々海池のミズバショウ群落

⓭ 山伏山と風穴（裏面に紹介）MAP C-2

⓮ 石落し（裏面に紹介）MAP D-3

⓯ 見玉不動尊と仁王門（裏面に紹介）MAP E-3

⓰ 穴藤の川原・古型マンモスの白歯化石出土地⚠（裏面に紹介）MAP D-3

⓱ 逆巻の川原と猿飛橋（裏面に紹介）MAP D-4

⓲ 清水川原の屏風岩（大巌）（裏面に紹介）MAP D-4

⓲清水川原の屏風岩

⓳ 結束の石垣田（裏面に紹介）MAP D-4

⓴ 結束のシジ穴 MAP D-4
萌木の里の裏側にある柱状節理の発達した岩壁は、鳥甲山の溶岩からなる。雪崩により縦溝状に浸食されている。「シシ」とは「アオジシ（ニホンカモシカ）」のことで、ニホンカモシカのねぐらがあることからこの地名がついた。

⓴結束のシジ穴

㉑ 見倉橋（地質景観）MAP D-4
見倉集落と対岸の結束集落を結ぶ吊り橋。橋から眺めるエメラルドグリーンの中津川と木々の美しさに息をのむ。2006年、毎日映画コンクール日本映画大賞・西川美和監督の『ゆれる』のロケ地にもなった。新潟の橋50選。

㉑見倉橋

㉒ 見倉の風穴・トチノキの原生林（裏面に紹介）MAP D-4

㉓ 前倉橋 MAP D-5
中津川渓谷にかかる新潟の橋50選のひとつ。苗場山麓で一番古い結束橋（約1,800万年前から1,500万年前の日本海ができ始めの頃の地層）にかかる。秋には岩壁と赤い橋が紅葉に彩られシャッタースポットとなる。

㉓前倉橋

㉔ 蛇淵の滝 MAP D-5
長野と新潟の県境にある硫黄川と中津川の合流点のやや下流に位置し、結束層と呼ばれる固く変質した玄武岩によって高さ約10mの滝が作られている。猟師が丸太橋でこの淵を渡ったら、その丸太橋は実は大蛇だったという昔話が残っている。

㉔蛇淵の滝

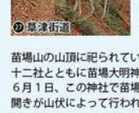
㉕ 矢櫃村跡 MAP D-5
浅間山の噴火による天明の飢饉（1782～1787）で滅んでしまった村の跡。この村に平家の落人が矢櫃を隠したという伝説があることから村の名前がついたと言われている。

㉕矢櫃村跡

㉖ 甘酒村跡 MAP D-5
天保の飢饉（1833～1839）において住人が餓死し、滅んでしまった村の跡。現在は、記念碑と石造物がならぶ。付近には当時の草津街道が残り、村が存在したことを今に伝えている。

㉖甘酒村跡

㉗ 草津街道 MAP D-4, D-5
中津川に沿って南北に走る街道。中津川と信濃川が合流するところから、中津川の源流である野反湖・草津温泉まで続いている。かつては信濃川の鮭を草津温泉まで運ぶために、多くの往来があったと言う。


㉗草津街道

㉘ 苗場神社 MAP D-5
苗場山の山頂に祀られている苗場神社の里宮として、十二社とともに苗場大明神として祀られている。毎年6月1日、この神社で苗場山・鳥甲山・佐武流山の山開きが山伏によって行われる。

㉘苗場神社

㉙ 黒駒太子堂 MAP D-5
聖徳太子を信仰の対象とするお堂。中には、聖徳太子を描いた掛け軸が安置されていた。この信仰は、大工や木工職人が多く信仰したと言われ、秋山郷における木材利用との関連が強いと考えられる。かつて、このような奥山では冬季に人が死んだ場合、僧侶を呼ぶことも出来ないため、この掛け軸を掛けて引導を渡す方法がとられていた。

㉙黒駒太子堂

㉚ 小赤沢のユモトマユミ MAP D-5
直径76cm、高さ6.2m、この種としては稀な巨木で、樹齢は200年ほどと推測される。栄村の天然記念物。

㉚小赤沢のユモトマユミ

㉛ 大瀬の滝 MAP D-5
苗場山の登山道沿いにある、苗場山麓で一番古い結束層にかかる滝。落差約15m、滝壺のそばまで近づくことができる。

㉛大瀬の滝

㉜ 苗場山と伊米神社（日本百名山・花の百名山）（裏面に紹介）MAP E-6

㉝ 小松原湿原 MAP E-5
下の代・中の代・上の代と呼ばれる3段の地形（標高約1,350mから1,570m）からなる高層湿原。無数の池塘が点在し、夏になるとワタスゲやヒメシャクナゲ、ベニサラサドウダンなどたくさんの高山植物が一斉に花を咲かせる。秋の紅葉も美しい。

㉝小松原湿原

㉞ 中津川上流の温泉群（裏面に紹介）MAP D-4～7

㉟ 布岩山（裏面に紹介）MAP D-5

㊱ 上野原の風穴 MAP D-6
国道405号沿い、上野原集落への登り口少し手前の岩壁の隙間から冷たい風が流れ出ている。この岩壁は、エラクボ平火山岩であり、流れ出す空気の温度は、夏場でも約10℃、外気温との温度差により、その周辺のみ霧が発生することがある。

㊱上野原の風穴

㊲ 天　池 MAP D-6
上野原にある幻想的なたたずまいの小さな池。晴れた日は、鳥甲山と木々が湖面に写り絶好のシャッタースポットとなる。周囲の白樺やモミジの林を散策することもできる。

㊲天池

㊳ 上野原（溶結凝灰岩）MAP D-6
上野原で見ることができる溶結凝灰岩は、灰褐色の安山岩質の岩石で、軽石がつぶれて紫がかった灰色ののびたレンズ状になって並んでいる。虎の模様に似ていることから虎斑石とも呼ばれる。鳥甲山の噴出物。

㊳上野原（溶結凝灰岩）

㊴ 和山の崖（凝灰岩）MAP D-6
新第三紀中新世中期から後期に湖であった所に堆積したと推定される凝灰岩の地層。和山付近の特に中津川左岸に大露頭があり、対岸から見ることができる。和山から小赤沢にかけての中津川沿いに分布し、層厚は100m以上ある。

㊴和山の崖（凝灰岩）

㊵ 鳥甲山（裏面に紹介）MAP C-6

㊶ 鳥甲牧場（湖跡）MAP C-4
鳥甲牧場周辺には、シルト層を主体とする五宝木湖成層と呼ばれる湖成層が分布する。このことからかつて湖であったことが推測される。

㊶鳥甲牧場

㊷ 勘五郎の滝⚠ MAP C-5
鳥甲山の第1期の火山活動によっておきた高山沢火砕流。勘五郎の滝は、その堆積物によって作られた。

㊷勘五郎の滝

㊸ 切明の川原（温泉湧出）（裏面に紹介）MAP D-7

㊹ 切明西方の滝⚠ MAP D-7
牧之が切明滞在中に村の子どもに案内してもらい訪れた滝。牧之はその景観を気に入り『秋山紀行』に記述している。切明から雑魚川にかけて、石英閃緑岩が、結束層の変質火山岩を北北西－南南東方向に貫入している。花こう岩の一種である石英閃緑岩は、ちぎで平滑な節理があって滝ができやすい。

㊹切明西方の滝

㊺ 夫婦滝 MAP D-7
雑魚川と魚野川の合流点にかかる二筋の滝。夫婦滝と呼ばれ切明橋の上から下流に向かって右岸奥に遠望できる。新緑や紅葉の時期には、二筋の白い流れが美しく背景に映える。

㊺夫婦滝

㊻ 雑魚川の大滝⚠（裏面に紹介）MAP B-6

㊼ 鬼沢火砕流跡⊗ MAP C-7
鳥甲山の第1期溶岩であり、白色のざらざらした石英安山岩（デイサイト）の火山砕屑物で、溶結している部分もある。雑魚川の支流鬼沢の中流から下流および高山沢の勘五郎の滝付近に見ることができ、秋山林道沿い、布岩山中腹にも分布する。

㊼鬼沢火砕流跡

㊽ 魚野川（左岸の遊歩道（東電トロッコ跡））

㊾ 魚野川左岸の遊歩道（東電トロッコ跡）MAP D-7
昭和28年、浄沢ダム・切明発電所建設のためにトロッコが敷設され、魚野川左岸を切明から浄沢ダムまで走っていた。現在は遊歩道となっており、道沿いには、結束層の玄武岩の枕状溶岩や泥岩を見ることができる。

㊽魚野川左岸の遊歩道（東電トロッコ跡）

㊿ 魚野川（地質景観）MAP D-7
魚野川峡谷は、結束層の硬い岩石で構成され、絶壁が続く。結束層の変質火山岩（グリーンタフ）の堅い部分が大小多くの滝をつくっている。岩雲山の八合目付近から上は、板状節理のある黒色の安山岩溶岩となる。

㊿魚野川（地質景観）

(51) 長瀬新田遺跡 MAP C-3
長瀬新田遺跡は、志久見川左岸、標高約520mの朴ノ木坂段丘面に相当する縄文時代の遺跡。約5,000年前の火焔型土器が出土しており、当時の集落が形成されていたと考えられる。栄村歴史文化館こらっせに展示。

(51)長瀬新田遺跡

(52) 天代の露頭 MAP C-3
天代では、約43万年前から現代までの地層を観察することができる。約43万年前から現代までの地層に何枚もの火山灰が挟まっている。

(52)天代の露頭

(53) 石器として利用された岩の露頭（裏面に紹介）MAP C-4

(54) 阿部家（長野県宝）MAP B-3
多雪地帯特有の「中門造り」の豪農を民家。母屋がL字型に突き出した中門に馬屋と便所を設け、中門の先端に主要出入口を設けている点に間取り上の特色がある。長野県では栄村を中心に分布し、その様式から1750～1770年頃築と推定され、苗場山麓で最も古い家。

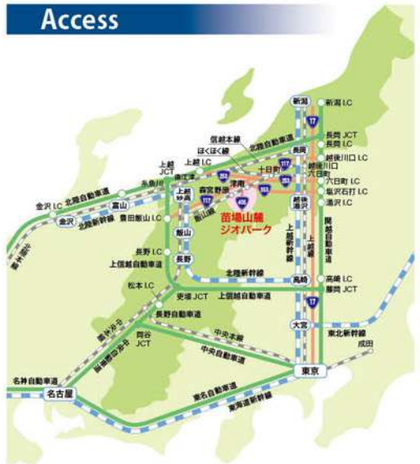
(54)阿部家（長野県宝）

(55) 常慶院（裏面に紹介）MAP B-2

(56) 中条川の崩落地形（長野県北部地震）（裏面に紹介）MAP C-2

(57) 森宮野原駅　最高積雪7.85mの標柱（裏面に紹介）MAP C-2

Access



■JRをご利用の場合

東京方面	上越新幹線	越後湯沢	南越後観光バス 森宮野原駅行 50分	津南	南越後観光バス 森宮野原駅行 15分	森宮野原（栄村）
新潟方面	上越新幹線	長岡	北陸線	越後川口	只見線	津南	只見線	森宮野原（栄村）
名古屋方面	中央本線	長野	北陸線	森宮野原（栄村）	北陸線	津南
金沢方面	北陸新幹線	飯山	北陸線	森宮野原（栄村）	北陸線	津南

■お車ご利用の場合

東京方面	関越自動車道	塩沢石打IC	R353→R117経由 35分	津南町	R117 10分	栄村
新潟方面	関越自動車道	越後川口IC	R117経由 60分	津南町	R117 10分	栄村
名古屋方面	中央自動車道	長野IC	長野自動車道	更埴JCT	上信越自動車道	上田菅平IC	R117経由 50分	栄村	R117 10分	津南町
金沢方面	北陸自動車道	上越JCT	上信越自動車道

■観光・宿泊案内
津 南 町 観 光 協 会　TEL025-765-5585　URL http://tsunan.info/
栄村役場商工観光課（秋山支所内）　TEL025-767-2202　URL http://sakae-akiyamago.com

■お問合せ
苗場山麓ジオパーク振興協議会
〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835
TEL025-765-1600 FAX025-765-5511 URL http://naeba-geo.jpn.org/

2016.06

苗場山麓の 人の歴史

縄文ムラ（農と縄文の体験実習館なじょもん）

苗場山麓に人が暮らし始めたのは、約3万年前の旧石器時代です。正面ヶ原Ｄ遺跡（ジオサイト№7）からは当時使われていたと思われる石器が出土しました。

横倉遺跡出土の石槍

その後の縄文時代になると、信濃川沿岸の内陸盆地に繁茂した落葉広葉樹を背景に雪国縄文文化が営まれました。縄文人は、1万年もの間森と共生しつづけた歴史をもちます。そうした中で彼らは、造形豊かな火焔型土器をつくり出しました。

苗場山麓には、縄文時代の遺跡が多く、今と同じく多雪という環境の中で暮らしつづけたその知恵や文化が現在にも受けつがれています。

江戸時代には、塩沢の文人鈴木牧之が秋山郷を旅し、風景や人々の暮らしを「秋山記行」に描きました。見玉不動尊と仁王門（ジオサイト№15）や猿飛橋（ジオサイト№17）、切明の川原（ジオサイト№43）などいくつもの場所で、牧之が描いた当時と現在の風景を比べて見ることができます。「秋山記行」を片手に牧之の足跡をたどるジオサイトめぐりもおすすめです。

（『秋山紀行』（野島出版刊）、『秋山記行』（平凡社ライブラリー））

堂平遺跡から出土した土器

秋山郷を初めて世に紹介した江戸時代の文人・鈴木牧之
鈴木牧之は江戸後期の文人で現・新潟県南魚沼市出身。1828年秋、牧之は秋山郷を訪れ『秋山記行』を著して、秋山郷の風習や習慣を紹介した。

温泉も大地のめぐみ

苗場山麓には、中津川流域・志久見川流域・信濃川流域にそれぞれ温泉が点在しています。茶褐色でとろとろの湯、噴出時空気に触れることで湯船の底が見えないほど赤褐色になる湯、川原を掘ると温泉が湧いて自分だけの露天風呂をつくれるところ（ジオサイト№43切明の川原）など、いろいろな温泉を楽しむことができます。ジオサイトめぐりの合間に効能と景色の異なる温泉で疲れを癒しませんか？

切明温泉「川原の露天風呂」

小赤沢温泉

上野原温泉

雪国ならではの食文化

苗場山麓では昔から、雪に閉ざされる厳しい冬を過ごすために保存食の知恵が受け継がれてきました。そしてそれにより独特の食文化が生まれました。

たくさんの雪はとけて大地に浸み込みます。そして長い年月をかけて地中でろ過され湧水となります。苗場山麓ではその豊富な湧水を利用し美味しいお米やお酒がつくられています。豊富な山菜やキノコも雪が降るために柔らかく美味しくなると言われます。

また、雪下ニンジンに代表されるように、野菜は雪の下にすると（寝かす）ことで、甘みが増します。これも多雪地ならではの恩恵のひとつです。